

豊橋市生涯学習推進計画

(2011-2020)

豊橋市教育委員会

「知の循環型社会」の構築を目指して

近年、わたしたちを取り巻く社会環境状況は、少子・高齢化、国際化、高度情報化社会の到来など急激に変化し、これに伴う市民の学習需要の増大への対応として、多様で総合的な学習機会の提供や家庭・地域の教育力の強化などの「生涯学習社会」の実現に向けた取り組みが強く求められています。

こうした中、国においては、平成18年12月に改正された「教育基本法」において、「生涯学習の理念」が新たに規定され、さらに、第10条「家庭教育」、第13条「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」も設けられました。

これを受け、豊橋市では、「豊橋市第5次総合計画」に基づき、新たな「豊橋市生涯学習推進計画」を策定しました。

先人のたゆまぬ努力により築かれた地域の歴史や文化を大切にしながら、「生涯学習・社会教育施設、図書館の充実」を図り、「生涯学習活動の促進」により得られた学習成果を、「家庭教育・地域教育」に活用することにより、新たな学習の需要を生み出す「知の循環型社会」の構築を目指しています。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力を賜りました豊橋市社会教育審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提言をいただきました市民の皆様並びに関係各位に対し、心からお礼申し上げます。

平成23年3月

豊橋市教育委員長 木下 治

「豊橋市生涯学習推進計画策定」に際して

少子・高齢化社会の到来、地球温暖化に代表される環境問題、不況による雇用問題の深刻化など社会状況はますます厳しくなっております。こうした中、本市では「豊橋市生涯学習推進計画」を策定しました。これはこの先10年を見通したまちづくり指針である「第5次豊橋市総合計画」を上位計画として、市民一人ひとりが生涯にわたって学び続けることができる「生きる力」を自ら獲得し、その成果を地域社会や自らの人生に活かすことのできる学習社会の実現を目指したものであります。

江戸時代に著された、佐藤一斎の『言志四録』の中にある「三学の教え」には、「少・壮・老」それぞれの人生の時期には、学ぶべき意義があると説いています。人が生きがいを持って、心豊かで充実した人生を送るためには、人生の各時期において様々な問題について関心を持って学び、それを社会や自らの人生に活かしていくことが大切であると考えます。

今後はこの「豊橋市生涯学習推進計画」により、さまざまな施策を推進してまいります。その中で市民一人ひとりが目標を持って生涯学習を実践することで心豊かな市民生活を送っていただくことを願っております。

最後に、この計画の策定にあたり、ご提案をいただいた豊橋市社会教育審議会委員の皆様をはじめ、ご協力をいただいた市民の皆様並びに関係各位に心からお礼申し上げます。

平成23年3月

豊橋市教育長 加藤 正俊

目 次

第1章 計画の策定にあたって

- 1 生涯学習の意義 3
- 2 計画策定の背景及び目的 4
- 3 計画の位置づけ 6
- 4 計画の期間 7
- 5 計画の基本理念 8

第2章 豊橋市生涯学習推進計画（2001－2010）の取り組み状況

. . . 11

- 1 総合的な生涯学習体系の確立 12
- 2 総合的な生涯学習関連施設・地域体系の確立 13
- 3 総合的な学習相談・学習情報提供システムの確立 15
- 4 生涯学習社会における新たな学校教育の確立 17
- 5 総合的な生涯学習の推進体制の確立 18

第3章 豊橋市生涯学習推進計画（2011－2020）の方向性

- 1 計画の基本的な考え方 21
- 2 施策の3本柱 23
- 3 計画の体系 24

第4章 生涯学習推進のための施策の3本柱

基本的な柱1 生涯学習活動の促進	29
(1) 一人ひとりの生涯にわたる主体的な学習への支援	29
(2) 社会の変化に対応した生涯学習の推進	33
基本的な柱2 家庭教育・地域教育の推進	40
(1) 家庭の教育力の向上	40
(2) 学校、家庭、地域の連携	42
(3) 地域の資源や財産を活かした学習の推進	45
(4) 地域活動や団体への支援及び連携促進	47
基本的な柱3 生涯学習・社会教育施設、図書館の充実	50
(1) 生涯学習関連施設の整備	50
(2) 生涯学習関連施設の機能の充実	53
(3) 図書館の充実	54
計画の取り組み目標（5年後）	56

資料編

1 市内の教育関係施設	61
2 各種事業の実施状況	65
3 アンケート調査の結果	72
4 豊橋市・愛知県・国、世界の生涯学習推進計画に関する動き…	88
5 主要用語解説	89
6 研究協議経過	93